

先月【仕合わせの和】第203号の住職欄で、『日蓮宗新聞』の購読を薦めていました。そんな『日蓮宗新聞』では、一般のご家庭、檀信徒読者の目線で掲載される、まさに為になる仏事の話が色々ご紹介されています。

そこで、『日蓮宗新聞』をご購読されておられない方必見の、役に立つ、今さら聞けない仏事の話。知っておきたい日蓮宗の仏事を、私の方からもご紹介させて頂くことに致します。あえて、『日蓮宗新聞』に掲載された文章を抜粋しながら、ご紹介させていただきます。当欄でご紹介しているのは、日頃、皆様とお話しさせて頂く中で出てくる事の多いご質問を、Q&A方式で読みやすくまとめておきます。ちなみに私は『日蓮宗新聞社』の回し者ではありませんが(笑)、ご興味を持たれた方には、ぜひ『日蓮宗新聞』のご購読をお薦めいたします。

●今さら聞けない仏事の話

Q&A

Q・仏壇にお供えするものは何？

A・仏壇にお供えして仏壇を美しく飾るものは、基本的には華・香・灯明の3つです。四季折々の美しい花と灯明をそれぞれ一対ずつ、ご宝前の両脇にお供えし、その間に香炉(こうろ)を据えてお線香を立てます。あるいは略式として仏壇に向かって左から花・香・灯明の順序に、一列に並べる事もある。このほかに

果物やお菓子など、折にふれてお供えします。量の多少に関わらず、お供えする気持ちが大切です。お客様から頂いたお土産などが仏壇にお供えした後で賞味するという習慣は、心がこもって子孫に伝えたいものです。朝一番に炊いたご飯や、最初に入れたお茶をお供えするのも、ご先祖様のお陰で私達がいるという感謝の心、仏様やご先祖様を大切に温かい心のあらわれです。仏様やご先祖様が実際に目の前におられるかのように、色々とお供えする心こそ、何よりも大切なのです。

Q・法号(戒名)はなぜつけるの？

A・法号(ほうごう)や戒名(かいみょう)は、今日では一般に死者に対して葬儀の時につける名前だと思われています。しかし本来はそうではなく、仏教信仰に入った者に与えられる名前なのです。古くは仏教の法(「教え」)を信じる者の名前という事で法名といわれ、後に法号とか戒名などと呼ばれるようになったのです。日蓮宗では主に法号と呼んでいます。仏教では僧侶や信者の守るべき戒律規範が定められてきました。そのため仏教信者になるためには「定められた戒律を守り、教えに則って正しい生活をします」と仏様と師僧(しそう)となる人に誓う事が必要でした。この誓いを立ててはじめて仏教信者としての名前法号が与えられたのです。

Q・お線香の正しい立て方は？

A・お線香は3本か1本です。3本とは「仏法僧(ぶつぼうそう)」の意味や「過去・

現在・未来」をあらわすともいわれています。お香は古くから「信心の使い」といわれ、お焼香をする事によって、その匂いが自らの内にある仏性(ぶつしょう)仏の心)を目覚めさせるとされています。また「仏の使い」ともいわれ、清らかな信仰の真心がお香の煙に乗って、仏様に伝えられるともいわれています。

Q・数珠の意味と作法とは？

A・数珠(じゆず)は「誦珠(ずず)」念珠(ねんじゆ)」などとも書き、「オモイノタマ」「ずず」等とも呼ばれます。念珠は字の通り念ずる珠(たま)であり、お題目を唱える時や、お経をあげる時に、数珠の数を数える道具であると共に、不安定になりがちな精神を集中し、仏様の世界を念じて一心にお題目を唱える者に、より多くの功德を授ける法具(ほうぐ)です。だから数珠は惑いを断った仏様の功德を円満に形作る事を意味して、丸く作られています。珠の数や材質、形などは宗派によって違いますが、珠の数では108つの煩惱(ぼんのう)を消す意味も含め、108個のものが一般的です。

Q・お墓参りの持つ意味は？

A・お墓参りをするという事は、亡くなった方々と私達の魂の触れ合いが法華経信仰によってなされる事を意味します。霊山(りようぜん)にいる先祖様と私達の繋(つな)がり、お墓参りによっても示されます。お墓は信仰の光に照らされた場所なのです。家族連れだってお墓参りに出かけ、

法華経信仰のもとにご先祖様と私達子孫の繋がりを求めていきたいものです。

Q・卒塔婆をたてる意味は？

A・卒塔婆(そとうば)とは梵語(ぼんご)「サンスクリット語」で「塔(とう)」を意味する言葉(《ストウパー》を音訳した語です。釈尊入滅時(お釈迦様がお亡くなりになられた時)、お弟子達の、釈尊を敬慕(けいぼ)う気持ちから建てられた塔は、中国、朝鮮を経て日本にも伝わり、五重塔にまで発展しました。しかし五重塔を造る事は容易ではありません。そこで作られたのが卒塔婆です。卒塔婆は上部を4つに刻み五重に形作られています。日蓮聖人(にちれんしようにん)は中興入道(ちゆうこうにゆうどう)に送ったお手紙に、塔婆(卒塔婆)の功德について「故精霊の功德は無量であり、建てた人も現世安穩(げんぜあんおん)、後生善処(ごしょうぜんじよ)は疑いなく、またこの塔婆にふれ、合掌礼拝(がっしょうらいはい)した人も功德を得る事が出来る」と示されておられます。このように大きな功德のある塔婆なので、回忌(かいき)法要(ほふ)に建てられるのです。毎回法要の時に建てられる塔婆は、亡き人に供養(くわう)するためだけでなく、自らの仏道増進(ぶつどうぞうしん)に資(し)する為でもあり、その功德は遠く釈尊にまで連なっています。日蓮宗では、塔婆を建てるのは、法華経(ほけきょう)の法師功德品(ほつしきどくほん)や如来神力品(にょらいじんりきほん)の起塔供養

(きとうくよう)の教えに基づいています。

Q・ひげ題目の意味は？

A・曼荼羅(まんだら)ご本尊(ほんぞん)を拝して下さい。中央には「南無妙法蓮華経」と題目が揮毫(きぎょう)されており、「法」の字を除いた6文字は長々と引き伸ばされています。日蓮聖人が創意された筆法(ひつぽう)ですが、字の先端が髭(ひげ)のように伸びている事から『ひげ題目』と称されています。これは光明を発している様子を象徴したものといわれ、中央のお題目が智慧をあらわし、髭は智慧の光明線を表現しているといえます。また髭が諸仏諸尊(しよぶつしよそん)のお名前の上まで長く引き伸ばされているのは、仏智(ぶつち)の仏の知恵の光に照らされて、生きとし生けるものが成仏した相(すがた)を写し出しているともいわれています。

Q・仏旗の色が表すものは？

A・日蓮宗のお寺の行事などで、黄・赤・紫・緑・白の五色の幕を本堂などのお堂の軒下に飾ります。通称「五色幕(ごしきまく)」と呼んでいます。これを真言宗の一部では「仏旗(ぶつき)」「仏教の旗」と呼んでいます。『五大(ごだい)』は地・水・火・風・空の5つの要素(原素)の事で、あらゆるものの根本存在を表していると考えられています。この五大は墓石に用いられて「五輪塔(ごりんとう)」となり、この塔も仏様の腰下(きやつか)、胴(どう)、額(ひたい)、頂

上(ちようじよう)などを表しており、全体で仏様のお姿ともされています。それで五大を表す五色も仏様の象徴として、その色の幕も仏旗としているようです。五大は五行(ごぎよう)土水火金木や五色(ごしき)黄白赤黒青、五輪(四角、丸、三角、半月、宝珠型)に対応しているし、四季を土用にも充(あ)てられています。青春や朱夏、白秋といった言葉となって、今も生きています。また大相撲の土俵の上に赤、白、黒の四方を表す房飾(ふさかさざり)が下げられています。六大(ろくだい)は、この五大に識大を加えて六大としたものです。大日経(だいにちきよう)などの密教経典(みつぎ)『日蓮聖人最初の著作』や『戒法門』(日蓮聖人の作とは疑わしいとされている)などで五色を「青・黄・赤・白・黒」と引用されています。いづれにせよ、現在のところ「仏旗」は、WFB(世界仏教徒連盟)や、全日本仏教会など国際統一旗を用いています。

以上、『日蓮宗新聞』に掲載されていた文章の中で、いくつか気になる仏事を選出し、紹介させて頂きました。新聞には様々な深淺な教えが掲載されています。時には真成寺の【冬至水行祭・ほしまつり】の行事が、新聞トップ一面で紹介さ

来月の予告で~す!

『花まつり』開催

お釈迦さまの御誕生を祝うと共に、4月からの新学年、新年度の新しい門出が素晴らしいものになるようにという思いも込めて、お釈迦さまに甘茶をそそいでください。

日時：4月8日(月)

▼10:00(約30分間)

魚津保育園の園児達が白象と一緒にパレード(行進)

▼10:30

花まつりのおはなし ※谷川寛敬(副住職)

▼11:00 おまいり 釈尊降誕会

お釈迦様の誕生日を祝してのお参り

▼12:00 昼食、解散

れたことがあつたり、真成寺住職や、現在富山県布教師会長を拝命している私の記事なども、定期的に掲載されるなど、読み応えのある一紙と言えるでしょう。
ご興味湧いた方は、どうぞお気軽に真成寺へお問い合わせ下さい。

合掌 副住職 谷川寛敬



真ごころちゃん

